



病院図書室のホームページ

野口 通世

I. はじめに

ホームページは“企業の顔”といわれるほどその影響力は大きく、広告としても使用されているように、重要な役割を担ってきています。画面の美しさとともにクリックするだけで次々に繋がっていく情報に、どんどん引き込まれていく構成になっていて、手軽にパソコンや携帯電話でインターネットに接続できることから、自分の好きな時に好きな情報を見るという形態に変わりつつあります。“知りたいことは何でもネットから”、それは現代社会に一番ピタッと当てはまるスタイルであり、また情報収集手段の一つとなっています。

しかし、ホームページはテレビCMのように、テレビをつけていれば勝手に宣伝が流れるわけではなく、消費者や利用者がアクセスしなければ見てもらうことはできません。

そこでホームページには、1回でも多く、1秒でも長くアクセスしてもらうために、さまざまな工夫がされています。世の中には素晴らしいホームページが本当にたくさんあります。

II. 当院のホームページ

当院では、ホームページを見て就職を希望する方が年々増えてきています。当院のホームページは、地域の開業医に向けた情報提供の手段として、1999年4月に立ち上げられました。地域の開業医との病診連携を強化し、患者様を紹介していただく開業医に向けて当院の診療科を紹介することが目的でした。診療科が中心の

画面構成になっているのは、「開業医の先生方が1回でもクリックする回数を少なくし、知りたい情報にたどり着けるようにする」ためです。“Simple is Best”が当院ホームページのコンセプトです。トップページは時代に合わせ、これまでに何度も変更してきましたが、診療科中心の画面構成は現在も変わっていません。新臨床研修医制度が開始されてからは、実習施設として選んでもらえるように内容も充実させています。ホームページは広報学術係2名が担当しており、随時更新しています。



図1 病院ホームページトップ画面

III. 図書室からの情報提供

当院図書室は最近まで医局図書室として医学関連の資料のみを所蔵していましたが、現在は病院図書室として全職員を対象に資料を整備しています。2006年5月の新病院移転後は、環境が大変良くなり利用者も増え、特に看護師、コメディカルの利用者は倍増しました。

図書室は利用してもらわなければ機能を果たしているとはいえません。当院図書室では年間多額の予算を組み、書籍や130誌あまりの定期雑誌を購読しています。一人でも多くの人に利用してもらい、それが使命だと思っています。

また毎月1回「図書室だより」を発行、医師をはじめ院内各部署に約180部配布しています。内容は、図書室の動きやお願い、研修会の報告など、今の図書室の状況をB4サイズ1枚に両面を使用して紹介しています。現在、第82号までを発行してきました。

他に新刊圖書の展示紹介はリストを配布すると同時にイントラネットにも掲載し、情報を配信しています。その他、メールで医中誌Webのお知らせや電子ジャーナル、無料トライアルの情報などを随時案内しています。

IV. 院内のインターネット環境

当院ではインターネットの利用環境は充実しており、医師のほとんどは自席から各自のパソコンでインターネットの利用が可能です。その医師一人一人がそれぞれ独自の使用検索サイトを持ち、お気に入りに追加したり、パソコンのデスクトップに表示したりしています。例えば当院の医師ですと、内科系の医師でも消化器科と血液科の医師では主な使用検索サイトが違いますし、大学から転任してきた医師などは、それまで利用していたサイトをそのまま使用しています。それぞれがこれまでに蓄積してきた情報や検索した履歴というのは、何よりの財産であり宝になると思います。

図書室もホームページを作成し情報を提供していますが、これは「文献や資料の検索など調べたいことがありましたら、まず図書室のホームページへ入って下さい。PubMedや医中誌Web、JDreamIIへもホームページからアクセスして下さい。洋雑誌のオンライン版はホームページに表示していますURLよりアクセスできますので、ID・パスワードを入力して頂きますと論文のフルテキストが読めます。」といったような「何でも図書室のホームページか

ら調べて下さい。」というものではありません。より良いインターネット検索とは、少ない手順で、知りたい情報にたどり着ける事が理想です。

ちなみに、当院図書室では洋雑誌を冊子体で購読し、無料で利用できるもののみオンライン版にアクセスできる環境を提供しており、約90%の洋雑誌がオンラインで論文のフルテキストを読むことができます。

V. 当院図書室のホームページ

当院図書室のホームページは、入院患者様に病院図書室を開放した2003年9月、患者様への情報提供の一つとして立ち上げました。また地域医療支援病院として、地域の医療従事者の方にも病院施設を利用して頂けるように図書室の情報を提供しています。

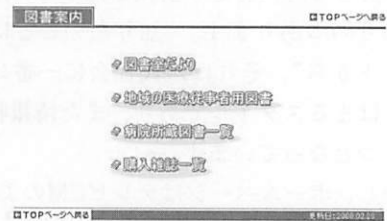


図2 当図書室ページトップ画面

対象者に一般の方を含むため、文字を少し大きく画面をシンプルにし、デザイン・色彩も明るく、優しいものを心掛けました。また書籍のタイトルや所蔵雑誌一覧はレイアウトを考え、雑誌名を「あ行」「か行」の区分ではなく、「臨床一般」「内科系」「外科系」「看護系」などに分けました。雑誌の情報提供は和雑誌のみにし、洋雑誌は掲載しませんでした。これは一般の方の利用を前提としているからで、掲載してもあまり利用されないと考えたからです。実際、院内でも洋雑誌の利用者は医師のみです。

書籍は米国国立医学図書館分類法(NLMC)を使用しています。恐らく一般の方にはなじみがないと思いますので、問い合わせがあれば丁寧に対応したいと思っています。

サービスが増える度、検索しやすくするために全ての情報をトップ画面に表示させている場合が多く、そのため文字が小さくなったりびっしりと書き込まれていたりします。しかし使い慣れてくると、簡単に欲しい情報にたどり着けるレイアウトである事に気付かされます。トップページのレイアウトは、ホームページを作成する上で本当に重要なカギだと思っています。

VII. 今後の課題

まず一つ目は、ホームページの更新です。ホームページは常に最新の情報を提供することが大切です。現在は図書室だよりを発行する度に更新していますが、図書室業務の合間にホームページを更新するのは大変な作業です。図書室のホームページを充実させ、研修医が実習施設を選ぶ際の条件として、図書室を挙げてもらえたらと思っています。また常に昨日と違う図書室であるよう、前向きな姿勢で取り組んでいます。

二つ目は、当院の職員にも利用してもらえるホームページにすることです。約750名全職員の希望を受け入れたホームページは業務の合間にできる程容易ではありませんが、利用者の立場に立ったホームページに少しずつでも近づきたいと思っています。

VIII. おわりに

“図書室は情報の発信基地である”、それが図書室の未来の姿だと思っています。所蔵図書・雑誌を管理し利用してもらうこと、最新の情報を提供すること、情報を得るために図書室に足を運んでもらうこと、そういった一つ一つの業務を丁寧に行うことが、少しでも理想の図書室へ近づくために必要なのだと思います。病院図書室は医学系大学図書館と違い蔵書も少なく、スペースも広くない所が少なくありません。また図書室担当者も専任、兼任などさまざまで、利用者もそんなに多くないかもしれません。しかし、利用者のほとんどが臨床現場に直結して

おり、文献などの資料収集・提供も至急に最新の情報が必要となる場合が大変多いのが特徴です。病院図書室は社会の動きに敏感であるだけでなく、常に院内の患者の病態に合わせた情報を把握していることも必要であり、どんな場合でも必要な情報を的確かつ迅速に提供できなければいけないと思います。

公開されている病院図書室のホームページは、基本的に院外に向けての情報提供です。図書室の情報だけでなく担当者の顔が見え、またその病院らしさや文化までが感じられる、そんなホームページが理想だと思っています。